

2023年度（2024年3月期）第2四半期決算発表説明会

Q&A

- Q1：エネルギー・ソリューションセグメントにおける電力事業は、お客さま件数が順調に伸びている中、収支に市場ボラティリティの影響を受けているが、中長期的な利益貢献のために、リスク低減にどのように取り組んでいくのか。
- A1：市場ボラティリティリスクに需給一体で対応する。需給調整機能として、ガスエンジンや蓄電池等の直接的な調整力を持ちつつ、高度なデジタル技術（分散型エネルギーリソース運用・管理システム等）を導入し調整力の向上を図っていく。また販売においては、ボラティリティの影響を考慮しながら小売と卸販売のバランスを図っている。
- Q2：「効率性・収益性向上に向けた取り組み」にある「予算作成プロセスの改善」について、どのような課題認識があり、何を変えるのか。改善すると来期以降どのような変化が期待できるのか。
- A2：これまで、KGIとして利益を掲げるなど、PLを中心に置いた計画策定を行ってきたが、今後の事業計画策定においては、BS・キャッシュフロー主体の計画を作り、収支計画・具体的アクションとしてまとめるような作り方へ、計画策定のプロセスをブラッシュアップする。各カンパニーや事業会社が達成すべきROAやWACCを設定することで、それぞれがより資産効率を意識した事業計画・運営に変化させていきたい
- Q3：PBR改善に向けてROE向上に取り組むとあるが、中計で掲げているROE 8%は、東証プライム市場の平均である9%に対し、不足する水準である。当社の目指すべきROEや自己資本比率についてどのように考えているか。
- A3：ROE 8%をなるべく早期に達成し、中長期的にはより高い水準を目指していきたいと考えている。事業ポートフォリオマネジメントの推進により各事業の効率性・収益性向上に取り組む、あわせて、適正なレバレッジをかけていく。最適な自己資本の水準や株主還元に関する考え方について、取締役会においても継続的に議論している。

以上